

巻頭言「太平洋島嶼における女性の地位」

この1月、マーシャル諸島に太平洋島嶼で女性初の大統領が誕生した。現在、国政レベルでの女性による政界進出率の世界平均は22.7%。それに対し、島嶼地域では13.4%と世界で最も低い水準にある。ミクロネシア連邦のように、女性議員が一人もいない島嶼国さえあるのだ。

こんな政界事情の中で出現したヒルダー・ハイネ大統領だから、いま域内各国から彼女に集まる視線が熱い。女性初の博士号(教育学)取得者、女性初の政治リーダー、女性初の教育大臣……、と彼女にはどこまでも『初』がついて回る。このような活躍を可能にした背景には、ハイスクール時代からハワイに滞在して積み重ねた勉学や仕事での経験があった。中でも深く関わったのがPacific Resources for Education and Learning: PRELで、コミュニティー作りや青少年に対する教育開発などに携わっていた。教育大臣のポストは、こうした経験を買われて就いたようだが、期待通りの行政手腕だと評判は上々だった。そもそも彼女が政界入りを決断したのは、コミュニティー社会との強い関わりをベースにした学問的専門性や国際的知見がこれからの島の政治に必要なだと考えたからだという。それにしても、女性国家元首の登場は、島々の伝統社会にはとてつもないインパクトだった。

だがそれは、島社会の伝統性に女性への蔑視観があったからだと言うのではない。話はむしろ逆である。島嶼地域における男女の社会的地位はもう少し複雑で、大ざっぱに言えば、メラネシアの比較的大きな島では父系制、小島嶼やポリネシア、ミクロネシアは母系制社会が根付いていた。父系制社会での女性は、しばしば男性の持ち物の一つだとする蔑視観が基層文化に見られたが、母系制社会における女性は、ファミリーの地位や生産の基盤となる土地財産などを継承していく際の要だった。よって、伝統社会における女性の社会的地位は高く、時には男性以上の権限を持っている。例えば、世襲制の後継酋長が出現する場合、継承順位の最高位者が単に酋長位に就くのではなく、高位家系の女性長老たちの協議によって決定することが多いのだ。「あの男は継承順位一位だが、酒癖が悪く身勝手だからダメ。頭が良く指導力もある三番目にしよう」という具合に。

要するに、ミクロネシアやポリネシアの女性は自ら表舞台にこそ立たないものの、裏では実質的な裁量権を握っている。ここに、社会的地位を高くする理由があったのである。ところがマーシャルでは、表に出ないはずの女性が大統領になってしまったのだから、伝統社会が受けたインパクトは強烈だっ

た。表裏のどちらでも、女に主導権を握られてしまったのだから。

島嶼地域全体を見ても、政治・行政職での女性の活躍機会は、徐々にだが広がる傾向にある。ちなみに、太平洋諸島フォーラムのテイラー事務総長はPNG籍の女性。7ヵ国ある在京大使館の内、サモアとトンガの大使が女性だ。

そんな女性パワー拡大への反動ではあるまいが、夫による妻への家庭内暴力が、多くの島嶼国で深刻な社会問題になっている。文化的な観点から、男の暴力行為は父系制社会のメラネシア諸国には多く、母系制のミクロネシア、ポリネシアには少ないと言えば分かりやすいだろう。しかし、米國務省が出した「世界の人権」報告書データは、「DVがほとんではないツバル」を除いて、ほぼ全ての島嶼国で深刻なDV問題を報告しており、その中でも最悪なのがミクロネシア連邦のチューク州だというのだから、とてもネシア間の文化的差異では説明できない。だとすると、何が原因なのか? あくまで私の勝手な想像に過ぎないが、近代化による太平洋的な伝統社会が崩れつつある一方で、新しい社会に適応しきれない男たちのストレスが蓄積してきているからではないか。原因はいずれにせよ、蔓延るDV問題を消滅させなければ、島世界に本当の平和は築けない。

そんなとき、去る5月に開催された「世界人権サミット」(トルコ・イスタンブールで開催)でフィジーの首相バイニマラマによる発言が、本国で喝采を浴びた。「夫によるDVは、妻の側にも一端の責任があるとの言説を聞くことがある。しかし、私の政府は、女性・少女への暴力には一切の寛容さも受け入れない。よって、DVが起こらないための徹底した教育と法的整備を最重要課題の一つとしていきたい」と述べたのだ。

これが国内でそれだけ評判を得たのには、訳がある。その前週にフィジーの女性国会議長であるジコー・ルヴァニ博士が、「妻たちが夫を咎めたり非難することで、夫たちの家庭内暴力をさらに悪化させている」とした演説した。バイニマラマはこれを受けて、フィジー国内を十分に意識した女性擁護の演説を国際場裏でやって見せたのである。ここに、クーデタ政権から圧倒的な国民的支持を受けて民主化政府への移行を果たしたバイニマラマの政治的手腕を垣間見ることができる。

これだけの政治力があるのだから、後は実際に、女性虐待の減少や女性の社会的地位向上に繋がる政策が実行されて行くことを祈るばかりだ。

(小林 泉)